

## 子どもたちに育てたい「自分で学ぶ力」

現在、国では次の学習指導要領の改訂に向けた議論が進められています。その中で大切にされていることの1つが、「子どもが自分で学びを調整しながら学ぶ」という視点です。

これからの社会は、変化が速く、答えが1つではない時代だと言われています。AIや情報化が進む中で、知識を覚えるだけでなく、「自分で考え、選び、判断しながら学び続ける力」が求められています。そのため学校教育でも、これまで

以上に「教わったことをそのまま覚える」だけではなく、子ども自身が学び方を考えながら学習を進めることが重視されるようになります。このことを「自己調整する力」と言います。

例えば、

- ・「今日は何から始めようかな」と見通しをもつ
- ・「この方法ではうまくいかないから変えてみよう」と工夫する
- ・「友達の考えを聞いてみよう」と相談する
- ・「次はこうしてみたい」と振り返る

こうした姿はすべて、自己調整する力につながっています。

例えば、社会科では、「どの資料を使うとわかりやすいか」を考えたり、理科では、「予想と違った結果になった理由」を話し合ったりする活動を大切にすること、また、算数科でも、「自分なりの解き方を説明する」場面を大切にすることなど、正解だけでなく、「どのように考えたか」を大切にすることで、子どもたちは少しずつ自分の学びを「調整」できるようになっていきます。こうした経験を積み重ね、子どもたちは少しずつ「自分で学ぶ力」を身につけていきます。

子どもたちに育てたい  
「自分で学ぶ力」

もちろん、最初から上手にできるわけではありません。うまくいかなかったり、迷ったり、途中で方法を変えたりすることもあります。しかし、その試行錯誤こそが大切な学びです。「間違えないこと」だけを求めるのではなく、「自分で考えてみること」「挑戦してみること」「やり方を見直すこと」を大切にしていきたいと考えています。 (※裏面に続く)

(※表面より)

ご家庭でも、例えば、「どんな工夫をしたの?」「どうしてその方法にしたの?」「困ったとき、どうしたの?」「次はどんなふうにやってみたい?」といった言葉は、子どもが自分の学びを振り返るきっかけになります。また、「早くしなさい」「正しくやりなさい」だけでなく、「自分で考えられたね」「最後まで続けられたね」と、過程を認める声かけも大きな力になります。

これからも学校では、一人一人が安心して挑戦し、自分で考えながら学びを進めていけるよう支援していきます。そして、子どもたちが将来にわたって学び続ける力を育めるよう、教育活動を進めてまいります。

## のだっこ Diary

★子どもたちの学校生活のようすは、本校ホームページでも紹介しています。随時更新していますので、ぜひご覧ください。

### 【春の遠足（1年生：八幡屋公園）】5月8日（金）

1年生が春の遠足で港区にある八幡屋公園へ出かけました。学校から玉川駅まで歩き、地下鉄を乗り継いで朝潮橋駅へ向かいました。途中では、友達とはぐれないように前の人について歩いたり、静かに並んで待ったりするなど、マナーを守って行動する姿が見られました。公園に到着すると、広い芝生やたくさんの自然に大喜び。展望台では、「電車が見える!」「遠くまで見えるよ!」と景色を楽しんだり、バッタやテントウムシ、ダンゴムシを見つけたりして、春の自然にも親しんでいました。広場では、友達と一緒に弁当を食べながら、「おいしい!」「見て見て!」と楽しく会話をする様子が見られました。昼食の後は、大きな滑り台や遊具で元気いっぱい遊び、学年みんなで「バナナおにごっこ」も楽しみました。「助けてー!」「あと1枚!」と声をかけ合いながら、広い芝生広場を走り回る姿がとても印象的でした。帰りの地下鉄でも、行きと同じようにマナーを守って静かに乗ることができ、1年生の成長を感じる場面がたくさん見られました。友達とたくさん関わりながら、楽しい思い出いっぱいの遠足となりました。



※「校長室だより」カラー版は、本校ホームページ「配布文書」にアップしています。